

女と龍と男の子についてのビジョン

聖書：啓12:1-17. 11:15

- I. 啓示録の書の第二区分における多くの極めて重要な事柄の中で、最初のものは、宇宙的な輝く女が、彼女の男の子と共に、大きな赤い龍と戦うというビジョンです——啓12:1-17：
- A. 啓示録第12章のビジョンは、創世記第3章15節からこの時代の終わりまでのすべての世代を扱っています——啓11:15. 12:10。
 - B. 啓示録第12章は、宇宙で起こっている事をわたしたちに見せます。ここでわたしたちが見るのは、神の敵が神と戦っているということです——17節。
 - C. 宇宙における真実の状態についてのこのビジョンは、わたしたちを統治するビジョンとならなければなりません——箴29:18前半. 使徒26:19：
 - 1. もしわたしたちがこのビジョンを見るなら、クリスチャン生活に関するわたしたちの観念は徹底的に変わるでしょう——Ⅱコリント5:9-10。
 - 2. この支配するビジョンを見ることは、わたしたちを助けて、真の一の中にとどまらせ、男の子を生み出して、神の敵を打ち破り、神の王国をもたらします——ヨハネ17:11, 21-24. 啓12:5, 10. 11:15。
- II. 「また、大いなるしるしが天に見えた。一人の女が太陽を着て、月を足の下にし、十二の星の冠を頭にかぶっていた。彼女は子を宿していたが」——啓12:1-2前半：
- A. この輝く女は、一人の集合的で宇宙的な女であり、神の民全体を象徴しています——1節。
 - B. 神の意図は、宇宙的な女を通して、男の子、すなわち、神の民の中の強い部分を産むことです。神はこの男の子を用いて、神の敵を打ち破り、神の王国をもたらします——10-11節。
 - C. 各世代を通して、神の民は、神の王国のために戦う男の子を産むために、産みの苦しみをしてきました——イザヤ26:17-18. エレミヤ6:24. 13:21. 30:6. ミカ4:9-10. 5:3. ガラテヤ4:19。
 - D. 男の子を産むために、神の民の少なくとも一部分が、女の正しい地位に戻り、実際上において、また実行上において、女の一部分になる必要があります——Ⅱコリント11:2. エペソ5:24。
 - E. 啓示録第12章の女は、彼女の夫に服従し、彼女の夫によって身ごもり、

彼女の夫のために何かを生み出します——2, 5節：

1. 召会の責任は、おもにキリストのために何かを行なうことではなく、キリストの何かを受け入れて、キリストから身ごもり、キリストのために男の子を生み出すことです——ガラテヤ1:15-16. 2:20. 4:19. ピリピ1:21。
2. わたしたちは夫である主に対して常に開き、キリストの要素、キリストの神聖な構成要素を絶えずわたしたちの中に造り込んでいただき、わたしたちの全存在に浸透し飽和していただく必要があります——マタイ5:3. ガラテヤ4:19. エペソ3:16-17前半。

Ⅲ. 「もう一つのしるしが天に見えた。見よ、大きな赤い龍がいて……龍は子を産もうとしていた女の前に立って、彼女が産んだなら、その子供を食い尽くそうとしていた」——啓12:3前半, 4後半：

- A. 龍は、神の敵を象徴しており、悪魔とかサタンとか呼ばれます。蛇は狡猾な者であり、龍は残忍な者です——9節. 創3:1. IIコリント11:3。
- B. わたしたちが見る必要のあるビジョンとは、宇宙において、女である神の民と、龍である蛇との間に、猛烈な戦いが起こっているということです——創3:15. 啓12:17：
 1. 創世記第3章15節で述べられている、蛇と女の子孫との間の敵意は、啓示録第12章において明らかになります。そこにおいて、この敵意は極みに至るまで成就されます。
 2. 龍は、宇宙的な輝く女を憎みます。彼は彼女に対して戦い、彼女の子供を食い尽くそうと企てます——4, 13-17節。

Ⅳ. 「彼女は一人の子、男の子を産んだ。この子は鉄の杖で、すべての諸国民を牧することになっている」——啓12:5節前半：

- A. 神が必要とするのは、男の子が神の敵を打ち破り、神の王国をもたらして、神の永遠の定められた御旨を完成させることです——10節. エペソ3:11. IIテモテ1:9。
- B. 召会は神の目的に到達しなかったもので、神は一群れの勝利者を選びます。彼らが神の目的に到達し、神の要求を満たします。これが男の子の原則です——啓12:11. 2:7, 11, 17, 26-28. 3:5, 12, 20-21。
- C. 神の民の間の強い者たちは、一つの集合的な単位であって、神のために戦い、神の王国を地上にもたらしめます——エペソ6:10-11. 啓12:10。
- D. 啓示録第12章の女の子孫は、個人のキリストであるだけでなく、団体の実体、すなわち、団体のキリストであって、かしらとしてのキリストと、からだとしての勝利を得た彼のすべての信徒たちを含んでいます——コ

ロサイ1:18:

1. 男の子は個人ではなく、団体です。男の子は、主イエス個人でもなく、彼から分離した勝利者でもなく、勝利者と共にある主イエスです——詩2:9. 啓2:27. 12:5。
 2. 主イエスは、男の子のかしら、中心、実際、命、性質です。勝利者は、男の子のからだです。
- E. 男の子の全存在は、キリストの要素で浸透され飽和されています。男の子になる道は、わたしたちの内なる人の中へと増強されて、キリストにご自身をわたしたちの心の中に建造し込んでいただくこと、キリストの計り知れない豊富で養われること、神のすべての武具としてのキリストを着ることです——エペソ3:16-18, 8. 6:10-11. ガラテヤ4:19。
- V. 「世の王国は、わたしたちの主とそのキリストの王国となった。彼は永遠にわたって支配される」——啓11:15:
- A. 男の子は、神の最も重要な時代の動きと関係があります。彼の動きとは、この時代を終結させ、王国の時代をもたらすことです——12:10. マタイ6:9-10。
 - B. 神は、この時代を終結させ、王国時代をもたらすことを願っています。このために彼は、男の子を彼の時代の手段として持たなければなりません——13:43前半。
 - C. 男の子が天へと携え上げられること、サタンが地に投げ落とされること、天における宣言は、男の子が王国を地上にもたらすことを表明しています。これが神の最大の時代の動きです——啓12:5, 9-10. 11:15。